

石川町の史実

石川町 町名の由来

「しかわむら」の地名が

古文書に初めて現れたのは鎌倉時代の一二三三年である。ただし、その古文書では「武蔵國久良郡平子郷石河村」と記されている。これはすなわち、武蔵国の中の久良群の中の平子郷の中にある石川村という意味である。おそらく平安時代の時点で「しかわむら」は開発されており、鎌倉時代には既に存在していたと思われる。現在の横浜地域で数少ない鎌倉時代の地名の一つである。

次に古いのが南北朝時代末期の二三八九年の古文書で、「こご初めて石川村」

と記されている。なお、古文書では「石川村」か「石河村」のどちらかで表記されている。

戦国から現代の 町名に至るまで

戦国時代の石川村は関東管領であった上杉氏の上杉定正の領地だった。石川村だけでなく現在の神奈川県下全域が上杉定正の領地であったという。また、その後は小田原に拠を構えた後北条氏の支配下となり、石川村はその支城の一つである玉縄城。現在の大船駅近くの鎌倉市植木と城廻の境・清心新女学院あたりの場所の管轄下に入ることとなった。

江戸時代初期の石川村

は、現在の元町・石川町・打越・中村町・唐沢・平楽・八幡町・山谷・睦町・堀ノ内町あたりで、今より遙かに広い土地だった。

そして明治時代の一八七三年の一月、歴史的に由緒ある「石川」の地名が「中村」の東部の地区に付けられて「石川町」という町名ができた。一八七四年には現在の寿町と松影町の沼地を埋め立てるため石川町の大丸山などを削って土砂を運び、平らになった跡地に「石川仲町」という名が付けられ石川町から石川仲町が分立した。

広告を載せたい方、石川町の歴史的情報をお持ちの方は、
@excite@co.jp
@excite@co.jp



題字 有波良江さん

【発行】
明治大学商学部
中川秀一ゼミナール
石川町プロジェクト

【協力】
石川町商店街協同組合



金米堂：神奈川県横浜市中区石川町2-60

今回のグルメレポートは、一八九二年創業の二〇〇年続く老舗和菓子屋「金米堂」に足を運ばせていただいた。

お店では金米堂おすすめの種類のお菓子をいくつか試した。一つ目は梅どらやきだ。こちらは横浜の高島屋で和菓子百選にも選ばれている。横浜ベイブリッジと



お薦めの梅どらやき

来の色と甘さが引き立てられた品となっている。三つ目は「バターどらやき」。バターのとろける舌ざわりと丹波産の大粒の小豆を使用しており、しっとりとした生地によく合った。金米堂は素材を生かした和菓子づくりをしており、どれも優しい味がした。ぜひ、近くまで来た時には立ち寄っていただきたい。

MOTOMACHIというロゴがプリントされており、内側は手亡というお豆の緑と、梅の甘露煮のピンクの色合いですごく美しい。優しい甘さの一品であった。二つ目の「かぼちゃ」は見た目が可愛らしいおまんじゅうで、着色料は使用しておらずかぼちゃ本